

# 平成 27 年度 第 3 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

上坂 貴志 栗島 聡

## Activity Report of SPM Research Committee

Takashi Uesaka Satoshi Kurishima

研究委員会では現在 9 の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。平成 27 年 5 月 29 日現在の各研究会活動と各種イベントの予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会やイベントには是非積極的な参画をお願いいたします。

### 1. 研究会活動

#### (1) プロジェクト計画における QFD 応用研究会

(主査: 横山 真一郎 東京都市大学)

QFD (Quality Function Deployment: 品質機能展開) の考え方を応用した要求整理方法を中心に、プロジェクト計画立案の手法、方法論を検討しています。2015 年は、これまでの要件定義の研究成果を整理し、重要なディスカッションテーマを振り返るとともに、近年の技術の変化も考慮して、要件定義に重要な普遍的な考えをまとめる活動を進めています。同時にプロジェクトマネジメントの課題を議論し、将来の研究テーマを検討しています。

##### <過去 2 ヶ月の活動実績>

・ 3 月 12 日～3 月 13 日:

春季研究大会において、AHP を用いた要求分析手法の選択方法と、プロジェクトの進捗データからリスク兆候を把握する方法についての研究を報告しました。

・ 3 月 20 日: 研究会開催

QFD 応用研究会のこれまでの議論のまとめについて議論されました。その結果として、論文、発表の形で報告された手法の考え方の裏にあるエッセンスを伝えることを主眼とすることを確認しました。その他、メンバーからの議題として EVM の運用方法について提起されました。

・ 4 月 24 日: 研究会開催

議論のまとめを書籍化することを確認し、書籍のテーマが議論されました。テーマの方針として、“複数のステークホルダーの視点から見た要件定義” とすることを決定しました。

##### <今後の予定>

・ 5 月 22 日: 研究会開催

書籍のテーマの再確認と、目次案を議論することを予定しています。またメンバーからの研究の取り組み、課題について会話しします。

#### (2) リスク・マネジメント研究会

(主査: 武井 勲 武井勲リスク・マネジメント研究所)

1 ヶ月に 1 回のペースで研究会を開催しています。2015 年度秋季研究発表大会に向けてプロジェクトに潜在するリスクの蓄積・評価に関わる研究をテーマに会員全員で取り組みます。興味や関心のある方の入会を募集しています。

##### <直近の活動実績>

・ 3 月 26 日, 4 月 24 日: 研究会開催

#### (3) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査: 河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャルPMの体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

##### <直近の活動実績>

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テーマとし、ICTプロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

・ 5 月 29 日: 研究会開催 [場所: 豊洲センタービル]

今年度の取り組み内容について確認しました。

##### [議事内容]

- ① 継続的に行われている ICT 街づくりプロジェクトなども考慮に入れたガイドライン作りを行う
- ② 東北の復興×観光情報プロジェクトについても当研究会の関与の方法などを模索していく

##### <今後の予定>

・ 7 月: 研究会

ガイドライン作成に向けた取り組み

【問い合わせ先】 yamamotot@nttdatacs.co.jp (山本)

#### (4) PM 人材育成研究会

(主査：池田 修一 富士ゼロックス)

「企業のプロジェクトマネジメント力向上」について、これまで参加メンバーのプロジェクト事例の発表、議論を行ってきましたが、3月度から以下の研究を行っています。

##### 1. 教訓の継承

組織的な教訓のまとめ、および組織内での継続的な展開

##### 2. 人模様の把握

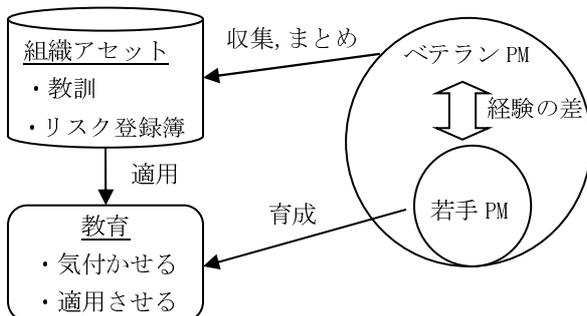
プロジェクトにおけるステークホルダーの人間関係についての把握

この内、1. 教訓の継承について、「教訓の集め方」、「整理方法」、「展開方法」などを議論しており、4月度は、「Y組織における若手PMの育成」を事例にして、教訓について検討をしました。

Y組織では、プロジェクトマネジメントに関するプロセスやテンプレートの環境は整っており、過去のプロジェクト課題からプロセス改善を継続的に行っており組織の成熟度は高い。しかし、若手PMの育成については以下の課題がある。

- ・若手PMはプロジェクト立上げ時に背景をよく理解できていない
- ・若手PMはプロジェクトのテンプレートを利用して計画を立てているが、完成度が低い
- ・レビュー時に多くの指摘をされる

これらの課題は、若手PMがプロジェクトに取り組む際に標準プロセスやテンプレートを形式的に捉えてしまい、テンプレートに含まれない過去のプロジェクト経験を若手PMが理解できていないのが原因だと考えられる。



この課題を改善するためには、いかにベテランPMの過去の経験を組織のアセットとしてまとめ、若手PMの育成に活かせるかがポイントになる。このしくみを組織内に構築することにより、ベテランPMと若手PMの経験の差が縮まると考える。次回は、この若手PMの育成に使える教訓をどのように収集するかを議論する。

【問い合わせ先】 pmcom2014@freeml.com

#### (5) パーソナル PM 研究会

(主査：富永 章 PM ラボラトリー)

最近では一般の人達でパーソナル PM に興味を示す方々がおられます。そのような人達に情報の経路を確認しますと、ほとんどが一般向け書籍「パーソナル PM」によるものです。成果に関する情報発信の重要性を感じさせられます。

現在は、フレームワークに沿って、もしくは自由な観点から、個人の PM の Lessons Learned を、各メンバーがネット発信する形で内容をまとめています。そのような活動がパーソナル PM 活用だけでなく、PM 実践の活動に刺激を与えて、日本における PM の推進に役立つと期待しています。

当研究会は次の 3 つを活動のゴールと位置付け、追究をしています。

- ① パーソナル PM をモダン PM の 1 領域として確立する。
- ② 各自がテーマを追究し成果を共有することにより、メンバー相互の成長を図る。
- ③ パーソナル PM を社会に役立て、PM を品質に次ぐ日本の強みにすることに貢献する。

これまでのパーソナル PM フレームワークとの対比を繰り返すことで体系自体の洗練ができるよう、また、より幅広い情報の発信ができるように検討していきます。

##### <直近の活動実績>

- ・ 4月14日：第74回会合 於日経 BP 社、情報共有 (IPMA の個人会員変更他)、情報発信状況、自由発表 (取り組み状況、個人プログラム、他)
- ・ 5月14日：第75回会合 於日経 BP 社、情報共有 (ProMAC 予定他)、個人の LL、自由発表 (検討型講義、個人プログラム、目標とトレース状況、インテグリティ)

##### <今後の予定>

- ・ 6月11日：第76回会合 於日経 BP 社、情報発信状況とフレームワーク関連、自由発表
- ・ 7月4日：第77回会合 於 PM ラボラトリー、情報共有、活動計画、自由発表他

#### (6) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立公共システム)

メンタルヘルス研究に関するコミュニケーションの場として活動しています。プロジェクト関係者のメンタルヘルス問題を予防し、プロジェクトの成功に貢献することがメインテーマです。毎月原則第三水曜日に勉強会・情報交換会を実施して

います。お気軽に体験参加してください。

#### <直近の活動実績>

##### ・ 4月15日：第65回定例会合開催

勉強会として、メンバーの五百井氏より「メンタルヘルス予防知識の体系化と意志決定」の紹介がありました。これまでのメンタルヘルス研究会で挙げたキーワードを、「PM フロネシス獲得モデル」，“サービスモデル”，“スクームモデル”の切り口から「メンタルヘルス研究会集積知識」を作成する内容で、非常に斬新なアイデアでした。また研究を始めたばかりで分類方法やキーワードとの対応付けなど検討が十分でない箇所もありましたが、こういった視点で研究も進んでいるという理解とその意義は非常に重要であるとメンバーが改めて認識することができ、非常に有意義な発表でした。

また、研究会が発足してから5年が経過したことから、「次の5年に向けて考える」ことをテーマにディスカッションを行いました。具体的には研究会の Mission, Values, Vision の再作成に着手しました。数回の検討を重ね5年後の研究会の姿を探っていく予定です。

##### ・ 5月20日：第66回定例会合開催

活動マネジメントとして、企画出版の活動状況が報告されました。執筆活動が終了し、出版社チェックが完了したこと、および出版記念セミナーの開催企画（トワイライトサロンでの発表など）や執筆したメンバーの会社で販売促進キャラバン活動を企画することなどについて議論を行いました。

企画出版作業が一区切りついたことから、昨年度開催した沖縄ワークショップの冊子化作業について検討を開始しました。準備状況やスケジュール確認、作業分担について確認を行いました。

また2015年のワークショップ企画状況も確認しました。開催日時は2015年9月11日（金）で場所は金沢とすること、および北陸先端科学技術大学院大学の教授にご講演頂くことが報告されました。PM学会の理事会（5月11日）で本件が承認されたことも合わせて報告されました。

#### <今後の予定>

- ・ 6月17日：第67回定例会合開催予定
- ・ 7月15日：第68回定例会合開催予定

【問い合わせ先】 pmmh\_all@googlegroups.com

#### (7) プロジェクトのデータ解析と見積り研究会

（主査：梶山 昌之 DSR）

プロジェクトの規模、工数・コスト・工期・品質・リスクなどの測定量を正しく分析するためデータ解析手法を学び、見積りおよびプロジェクト計画への活用法を研究します。

プロジェクトデータの解析に必要となる統計解析を目的として、R言語を活用する方法を研究中です。また、見積りでは要求仕様の完全性が重要な要因となるため、今年度から要求を仕様化する技術の研究を開始しています。

#### <今後の予定>

会合は1回/月を目安に開催していますので、ご興味ある方の参加をお待ちしております。各回の会合で、前提知識は必要ありませんので、途中参加の方も歓迎します。研究会メンバーはExcel統計、CEBoK™研究、R言語活用研究等の活動で作成したコンテンツを社内の研修資料や論文作成などに活用できます。

また、毎回独立したテーマを学習しますので、途中からの参加も歓迎します。

#### (8) R&D プロジェクトマネジメント研究会

（主査：久保 裕史 千葉工業大学）

研究開発プロジェクトに使えるプロジェクトマネジメント（R&D PM）の知識体系の構築を目指して、活動を進めています。

今年度初の会合で、これまでの活動の振り返りと、今後の活動の進め方についての審議、及びNEC岡田清久氏による特別講演会を実施しました。

今年度は、R&D PMに関する学会発表、論文発表を通じて知識体系の構築を前進させるとともに、これまでの成果をまとめた出版物の発行を目指す計画です。さらに、今年度も千葉工大フォーラム資金の支援を得て、毎月定例会、隔月の特別講演会の開催や、年3回程度の見学会開催、来年2月の第3回シンポジウムの開催等を予定しています。参加メンバーもさらに増え続けており、新たな知識の導入とさらなる創発を期待しています。

今回の特別講演会は、「ITシステム開発プロジェクトにおける都市伝説」と題して、長年にわたる岡田氏のプロジェクト経験から得られた知見が披露されました。ここでは紙面に限りがありますので、「都市伝説」の具体的項目のみ列挙します。

「ウォーターフォール・モデルは良くない!」、  
「PMBOKで属人的要素に頼らないPMを実現できる」、  
「PMBOKは役に立たない・使えない」、  
「ITプロジェクトの成功率は低く、30%前後」、  
「失敗プロジェクトは分析で手を打てば防げる」。

これらの項目に対し、同氏から豊富な関連データと見解が披瀝され、それに対する活発な議論が深夜まで繰り広げられました。

本研究会は、本年度よりさらにオープン化し、R&D PM の知識体系づくりを着実に推し進めていく計画です。関心のある方は、是非下記問い合わせ先までご連絡下さい。

<直近の活動実績>

・4月9日：富士フィルム オープン・イノベーション・ハブ見学会 [場所：富士フィルム本社]

・4月23日：第22回定例会 [場所：千葉工大]

<今後の予定>

・5月27日：第23回定例会 [場所：千葉工大]

・7月1日：イノベーション関連の特別講演会 [場所：千葉工大]

【問い合わせ先】 rd-pm@googlegroups.com

(9) フロネシス PM (知恵ある実践) 研究会  
(主査：本間 利久 北海道大学)

2012年10月に発足した研究会です。この間、28回の研究会および「WS2013 in Seoul」と「WS2013 in Kuala Lumpur」を実施しました。これまでの研究会の活動内容は学会誌 Vol.14, No.6 (2012), Vol.15, No.1-6 (2013), Vol.16, No.1-5 (2014), Vol.17, No.1 (2015) の研究会報告に掲載されています。さらに、学会誌のトピック記事 Vol.15, No.6 (2013), 連載記事 Vol.16, No.1-5 (2014), Vol.17, No.1-2 (2015), @PM.Letters 82 (2013), @PM.Letters 91 (2015) があります。

<直近の活動実績>

・4月16日：第28回研究会

[場所：(株)アスカプランニング 東京]  
研究会の札幌および松山開催について、関連学

会の日程をもとに検討しました。また、学会誌の第9回8月号の連載記事の執筆を永地委員にお願いすることにしました。最後に梶山委員より、学会誌の第7回4月号の連載記事の目的と背景の説明があり、プロジェクトの成功・失敗に影響を与える見積もりに関する日本と米国との違いおよびグローバル化時代に向けた見積もりのあり方の紹介がありました。さらに、コスト評価知識体系 (CEBoK) の観点から、スケジュール遅延と契約タイプの日米間の違いを分析し、社会情勢と国民性を反映した人間の行動特性および契約の多様化の重要性が指摘されました。その後、出席者との間でつぎの視点からの議論がありました：①インセンティブと報酬の違い②明確なコスト管理の可能性③日本の品質管理の発展経緯と TQC の現状④サービスの質とモノの品質の違い⑤統計学のビッグデータへの適用性⑥量産品の標準化と特注品の人・企業依存性⑦政府調達基準の最近の変化と見積もり法⑧モデルの有無によるモノづくりの違い⑨アジャイル開発とウォーターフォール型開発の適用の違いなど。

<今後の予定>

・5月28日：第29回研究会 [場所：東京]

・6月18日：第30回研究会 [場所：東京]

さらに、WS2015 のインドネシア開催を検討しています。

2. その他

活動中の研究会への参加や、新規研究会活動に関する問い合わせは下記までご連絡をお願いします。

【問い合わせ先】 pmKenkyu@jp.ibm.com

研究委員会委員長 上坂 貴志

研究委員会委員 川口 智/笠崎 裕子